

平成30年度 アドバイザー派遣事業

研修実施団体：箕蚊屋中学校校区人権・同和教育推進協議会

日 時：平成30年11月30日

会 場：日吉津村立日吉津小学校

アドバイザー：市川伸一教授(東京大学)

(1) 日 程

- | | |
|---------------|-----------------------|
| ① 8：55～ 9：40 | 1校時 全学級の授業参観 |
| ② 9：45～10：30 | 1年1組国語「思い出して書こう」 授業参観 |
| ③ 10：50～11：35 | 3年2組算数 「分数」授業参観 |
| ④ 13：30～14：15 | 研究授業 5年算数「単位量あたり」 |
| ⑤ 14：45～16：50 | 授業研究会 |

(2) 授業後の研究会より

4月から取り組んできた「教えて考えさせる授業」について、今後の方向性を他校の実践例や先生自身の実践を紹介してくださり、深い理解につながった。



今回は代表授業（低中高）について学年部で教材研究、指導案検討や模擬授業など事前の研究の充実を図った。教材研究を通して「教えることの精選」「深化課題の設定の仕方」が本校の課題として明確になった。

・ 予習

本校の実態：うまく取り組めていないのが現状である。

- ⇒ 3分でも教科書を見てくることで先生の説明がわかりやすくなる。
- ⇒ 予習すると授業の妨げになるのではなく、「実際に確認できる感動」「実験から新しい発見につながる感動」と深い理解に繋がってくる。
- ⇒ 公式は分かってもよい。底辺や高さまでわかって説明できる。
基礎を教えた上で深い理解につながっていく。

・ 教師の説明

本校の実態：15分が理想であるが、20分を過ぎてしまう傾向にある。

- ⇒ 授業の様子をビデオに撮影して、振り返ることが上達の近道である。
- ⇒ 対話的なやりとりをするが、子どもたちから全部引き出さない。

⇒ 「理解した状態」とはどのような状態を指すのか、その「理解した状態」に至るために、教師からはどのような説明が必要か、児童はどこで躓くか、それらをどのように捉え、どのように授業をつくっていくのが大切である。

・理解確認

- ⇒ 全て教えようと思うのではなく、ポイントを示して説明すること。
- ⇒ 全員の理解を求めすぎて、授業が停滞してはいけない。

・理解深化

- ⇒ 複雑ではなく、本質的な理解になる内容をめざす。
- ⇒ ヒントは支援がなく、共同や個別対応しきれずに終わってしまう。

研究協議では他校の研修参加者もグループに入り、「工夫がありよいこと」「問題点と改善点」「自分でも応用できそうな点」という視点でグループ協議を行った。中学校の先生からは数学の専門的な視点も話題となり、教材研究の充実にも繋がった。各グループ毎に協議内容を発表し、研修参加者がそれぞれの学校（教科）の課題に照らしながら、研修内容を各校に持ち帰り、授業力向上の一助とすることができた。

